

<あすなろ生協診療所 井口所長 現地支援メールレポート>

3/19 17:27

現在宮城県古川市で活躍中。坂病院の北約40キロにある古川民主病院で本日、明日、日直支援。高血圧、心房細動の87歳女性、右下肢疼痛。スーパーで食品買うのに3時間並んでいたら痛くなって受診。右足の冷感著し。医局にいた副院長が搬送す。あの女性と知り合いですかと副院長が言う。そんなことがあるはずがない。私の名刺を渡すただけですよ。

3/19 23:46

なんとも表現できない状況です。というのではなく正確には現在の状況に自分の脳がついていけないという方が正しい。客観的な状況は以下

- 1、支援内容は坂病院が決める。希望は聞かない。
- 2、坂総合病院での救急外来約10名。避難所診察約10名。関連病院である松島病院と古川民主病院各1名。松島は鹿児島島の馬渡院長、古川は井口。松島は湾なので完璧な津波の被災地。古川は山間というか、山の奥。本日の診察は2名。87歳女性右足血栓。病棟で寝たきり発熱の男性。これがバイトならラッキーだが、今は超アンラッキーに感じるのかが人間の不思議。

3/20 9:00

今朝は情緒安定。朝食炊き出しの女性は、2日前より泊まりこんでいると。自宅まで15キロ、ガソリンがないので、帰ったら出勤できないと。頭がさがる。

3/20 17:30

古川から坂病院に帰り本部に報告に向くと、今医師を探しているところだと。避難所から、グループホームのインフルエンザ集団発生の往診依頼あり。山梨の看護師と坂の運転手と往診。発熱しているが皆さん安定。介助者にも発熱時のタミフルを渡して終了。

3/20 18:54

昔の先輩の名前が担当表にあり、救急外来緑ブースを訪ねたところ、隣で蘇生法の最中。避難所で倒れて蘇生しながら搬送されたと竹内先生。きびしいです！とのチーフドクターの声が数分おきに聞こえる。家族に言っているのか、スタッフに言っているのか。感情を込めずに叫んでいる。避難できたのに亡くなるのか。

3/21 7:32

朝4時に目覚めた。ごそごそすると人を起こしてしまうので、いったん外に出る。病院玄関で警備の人と話をする。坂病院の医師は休憩できないらしい。救急外来にいつてみる。点滴中の患者2名、診察中の患者なし。福島病院の杉本医師がいる。坂総合病院の医師を教えてもらい話を聞く。外部医師のおかげで休憩はとれるようになってきたが、今風邪をひいている。患者の風邪をもらいました。家にも帰れるようになったが、家は断水の為病院にいる。ちょうど彼女に無線が入り、患者診察依頼。担当の杉本医師が呼ばれたが、5歳喘息のため、自分が後退して診察。発作はひどくはない。かかりつけの先生は津波で亡くなったので別のところで薬もらった。吸入、追加薬を処方。私は広島から来ましたと両親に伝えた。これは馬渡先生からアドバイスによるもの。日本中が見捨てていないというメッセージなので必ず伝えるように。 ~以下 略~